

2016 年度

事業報告書・決算報告書

2016 年 4 月 1 日から

2017 年 3 月 31 日まで



公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	ごあいさつ	1
事業報告		
1	総 会	2
2	役員会	2
3	会 員	2
4	調査及び研究 (定款第5条1号)	3
5	研究発表会及び学術講演会等の開催 (定款第5条2号)	4
6	学術誌及び学術図書の刊行 (定款第5条3号)	5
7	人材の育成 (定款第5条4号)	6
8	規格の作成及び普及 (定款第5条5号)	8
9	内外の関連機関、団体等との提携及び交流 (定款第5条6号)	10
10	研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第5条7号)	12
11	その他この法人の目的を達成するために必要な事業 (定款第5条8号)	12
	参考：事業区分の説明	14
決算報告		
	貸借対照表	16
	貸借対照表内訳表	17
	正味財産増減計算書	18
	正味財産増減計算書内訳表	20
	財務諸表に対する注記	22
	附属明細書	24
	財産目録	25
◆	監事監査報告	26

ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会
会長 松本 宜之

本会は1947年2月に自動車に係わる学術団体として設立され、自動車産業の発展とともに歩み、今年2月に創立70周年を迎えました。今年度末の会員数は、48,987名となり、期末としては過去最高となっています。このように本会が国内最大級の学術団体に成長できたことは、ひとえに本会に携わる方々の垣根を越えたご尽力、並びに会員増強活動を継続いただいている各支部の日ごろのご努力の賜物であると深く感謝申し上げます。

5月の横浜での春季大会・展示会では参加登録者数、出展小間数とも過去最高となる好調なスタートを切りました。その後も6月の名古屋での展示会、8月のキッズエンジニア、9月の全日本学生フォーミュラ大会、10月の秋季大会などの各イベントを成功のうちに開催することができました。特に札幌で開催しました秋季大会は、秋季大会としては過去最多の講演発表数を反映し、前回2011年の同地での開催時と比較して5割以上多い皆様にご参加いただきました。また、2014年12月以来、2回目の開催となった名古屋での展示会は、出展社数で約50%増、出展小間数で約40%増と初回時を大幅に上回る規模となり、順調に成長路線を歩み出すことができました。名古屋展示会は来年度以降、毎年開催することとしております。

調査・研究の分野では「自動運転委員会」及び「サイバーセキュリティ講座企画委員会」を設立し、新技術への対応を図るとともに、規格事業においても自動運転の標準化について国内外の関係団体との連携活動を推進しました。また、出版事業においては、700名にも及ぶ技術者や研究者の方々にご参画いただいて全面改訂された新版自動車技術ハンドブック全10分冊の刊行が完了しました。賛助会員各社のご協力も得て、2016年度末時点で目標を上回る10,000冊超の売上げを達成しております。

さて、自動車産業は今まさに大きな変革期を迎えています。この変革期を乗り切り、社会や世界の人々の期待に応え、大きな飛躍を成し遂げるためには、技術や産業の領域を越えて議論し、英知を集結し、形にしていくことが非常に重要であります。本会としてもリーディングソサエティとして、その一翼をしっかりと担っていきたいと思っておりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

1 総 会

2016年5月26日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において第6回定時総会を開催した。

加藤会長（2014-2015年度）の議長により次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

出席者による議決権の総数：184個（委任状を含む）

議案：

第1号議案：2015年度決算報告の件

第2号議案：2016-2017年度理事選任の件

第3号議案：2016-2017年度監事選任の件

第4号議案：名誉会員推薦の件

報告事項

(1) 2015年度事業報告の件

(2) 2016年度事業計画の件

(3) 2016年度予算の件

(4) 2016-2017年度会長・副会長・会務担当理事・常務理事選定の件

その他

・支部感謝状授与（北海道支部・東北支部・関東支部・中部支部・関西支部・九州支部の全支部）

・5万名目の会員に記念品贈呈

2 役員会

理事会5回、担当理事会4回、及び支部担当理事会2回を開催した。

3 会 員

2016年度中の個人会員の入会者数は4,178名、退会者数は3,551名で、2017年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し627名増（約1.3%増）の48,987名となった。賛助会員の入会数は50社、退会数は24社で、2017年3月31日現在の会員数は前年度比26社増の615社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合計	賛助会員
2012年度	48	42,357	1,903	44,308	508
2013年度	46	43,395	2,108	45,549	533
2014年度	46	44,758	2,196	47,000	563
2015年度	49	46,115	2,196	48,360	589
2016年度	50	46,464	2,473	48,987	615

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海外	合計
2012年度	230	508	17,540	20,044	5,233	511	242	44,308
2013年度	208	576	17,803	20,678	5,493	506	285	45,549
2014年度	211	642	18,336	21,303	5,589	642	277	47,000
2015年度	216	622	18,462	22,059	5,855	854	292	48,360
2016年度	240	564	18,714	22,286	6,046	858	279	48,987

4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

自動車及び自動車関連技術の調査・研究・交流活動を目的とする43部門委員会と1特設委員会の活動を推進した。

共同研究センターでは、8委員会が活動期間3年目（昨年活動期間1年延長を申請。全て承認された）に入り、成果報告に向けての活動を推進した。本年度新たに自動運転技術に関わる各委員会（技術会議傘下の9部門委員会及び共同研究センター傘下の1委員会）を横断的にまとめた「自動運転委員会」、新規分野としてサイバーセキュリティに関する講座を企画する「サイバーセキュリティ講座企画委員会」が設立された。

部門委員会と共同研究センター傘下の各委員会の企画により、2016年春季学術講演会においては、80件のオーガナイズドセッション（OS）及び11件のフォーラムを実施、今年度より定期開催となった名古屋展示会においては、6件のフォーラムを実施し技術交流の促進に大きく貢献した。国際会議関係では、「EVTec & APE Japan 2016」を開催した。

技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回開催。
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を行った。3回開催。
合同会議	2016年8月26日開催（早稲田大学理工学部 西早稲田キャンパス）。約140名出席。基調講演2件。事務局から事業報告と2017年度事業計画策定を依頼。部門貢献賞、学術講演会運営功績感謝状授与式、及び懇親会を開催。
拡大運営検討委員会	2016年8月26日開催。技術担当理事、及び内燃機関関連の7委員会（ガソリン機関、ガス燃料エンジン、ディーゼル機関、大気環境技術・評価、燃料潤滑油、排気触媒システム、エネルギー部門委員会）の委員長・幹事の参加により、意見交換会を実施。
部門委員会 ・特設委員会	43部門委員会、1特設委員会で活動。委員会延べ開催数250回、話題提供者数467名。
新設委員会	今年度は無
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、他を行った。
国際会議	以下の国際会議を開催した。 ・EVTec & APE Japan 2016（2016年5月25日～27日 パシフィコ横浜）
OS・フォーラム	OS:2016年春季大会にて76件を実施 フォーラム:2016年春季大会にて10委員会で9件、名古屋展示会にて3委員会で2件を実施

シンポジウム・講習会	シンポジウム:12委員会が企画し11件実施 講習会:5委員会にて4件実施 シンポジウム、講習会合わせて総動員数1626名
公開委員会	16委員会が17件を企画・実施
研究調査事業	9委員会が11テーマで実施。予算総額:7,480千円
受託・請負事業	大気環境技術・評価部門委員会 受託先:日本自動車工業会
その他活動	デザイン部門委員会により、第5回中高生カーデザインコンテストを開催

共同研究センター

運営委員会	共同研究センターの運営他について議論した。1回開催。
委員会活動	11委員会にて調査研究活動を推進。委員会延べ開催数63回、話題提供者数59名
新設委員会	自動運転委員会、サイバーセキュリティ講座企画委員会
OS・フォーラム	OS:2016年春季大会にて4件企画・実施 フォーラム:2016年春季大会にて3委員会2件、名古屋展示会にて5委員会4件を実施
研究調査事業	今年度なし

OS: Organized Session

EVTec: International Electric Vehicle Technology Conference

5 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業)

春季大会は過去最多の参加者数となった。秋季大会(札幌市)は昨年の北九州開催時とほぼ同数の1,859名が参加、前回札幌での開催時(1,190名/2011年)を大幅に上回る規模となり、盛況裡に開催した。人とくるまのテクノロジー展は、5月に横浜、6月に名古屋で開催した。横浜は過去最大の出展規模、名古屋は2014年12月以来の2回目の開催で初回開催時(197社/416小間)を大幅に上回る規模となった。

春季大会 <2016年5月25日(水)～27日(金) パシフィコ横浜(横浜市)>

学術講演会	96セッション、講演数441編(うち英語講演数85編)、参加登録者数5,981名
フォーラム	14件、聴講者数計2,972名
Keynote Address、JSAE Annual Party(技術者交流会)、女性技術者交流会	

秋季大会 <2016年10月19日(水)～21日(金)(札幌市)>

学術講演会	83セッション、講演数396編(内、英語講演16編)、参加登録者数1,859名
市民公開特別講演、Technical Review、産学ポスターセッション、秋季大会パーティ(技術者交流会)、学生フォーミュラ車両展示	

自動車技術展 <2016年5月25日(水)～27日(金) パシフィコ横浜(横浜市)>

<2016年6月29日(水)～7月1日(金) ポートメッセなごや(名古屋市)>

人とくるまのテクノロジー展 2016 横浜	出展数538社/1,155小間、来場者数 87,375名、貢献出展社8社を表彰
人とくるまのテクノロジー展 2016名古屋	出展数306社/593小間、来場者数 38,584名、貢献出展社7社を表彰

シンポジウム

部門委員会企画 シンポジウム	計15回開催、計1,288名参加
-------------------	------------------

6 学術誌及び学術図書の刊行 (定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

会創立70周年に向けて全面改訂を行った自動車技術ハンドブックは、第4、第5、第6、第8、第9及び第10の各分冊を発行し、全10分冊の刊行が完了した。また、出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人12名に編集会議感謝状を贈呈した。

資料収集・調査研究に関する学術誌の発行 (公1)

自動車技術	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連のほか、自動車技術者や研究者などにとって有益なテーマを毎月特集テーマとして取り上げタイムリーな記事を掲載 ・本会創立70周年企画として「クルマづくりの心意気」をVol.71 No.1より連載開始 ・8月年鑑号英語版のウェブサイト掲載を継続 ・年間発行部数約 62万部
自動車技術文献抄録誌	毎月発行し、3,897件掲載 新たに「International Vienna Motor Symposium」からの文献を収録
新版 自動車技術ハンドブック	第4分冊(設計《デザイン・車体》編)、第5分冊(設計《エンジン》編)、第6分冊(設計《シャシ》編)、第8分冊(試験・評価《エンジン》編)、第9分冊(試験・評価《シャシ》編)、第10分冊(生産・加工編)を発行
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2016年度は、Vol.6 No.2～Vol.7 No.2として、計 5回発行した
日本の自動車規格 (2015年日本語版)	JASO 規格 380件、TP・TR 59件、JIS 規格 398件、TRIAS 203件を収録
JASO 規格(英語版)	英訳された JASO 規格291件を収録
高翔	関東支部企画・編集により2回発行
宙舞	中部支部企画・編集により2回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により2回発行
オートテクノロジー2017	第66回自動車技術会賞・技術開発賞受賞者へのインタビュー記事を収録し発行(53,500部)、会員に配布
テストングツール 最前線 2016	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事広告誌として発行(61,000部)。会員のほか、人とくるまのテクノロジー展来場者にも配布
次世代自動車技術 最前線 2016	次世代自動車に関する各社の技術や取り組みをまとめた記事広告誌として発行(61,000部)。人とくるまのテクノロジー展来場者にも配布
技術報告シリーズ	以下の3件を発行した <ul style="list-style-type: none"> ・超ハイテン材の破断に対する予測技術の研究(構造強度部門委員会) ・簡易車両の空力 CFD ベンチマーク用風洞実験モデルデータの公開(CFD 技術部門委員会) ・(改訂版)エンジンルーム通風解析の実践ガイド(CFD 技術部門委員会)

研究発表に関する学術誌の発行 (公2)

自動車技術会論文集	年6回発行し(冊子版、CD版)、213編掲載
International Journal of Automotive Engineering	英文の電子ジャーナルとして年4巻発行 21件を掲載し、J-Stage にて無料公開
学術講演会予稿集	2016年春季・秋季大会分を発行、合計 841編掲載
Summarized Paper	2016年春季・秋季大会分をウェブ上で無料公開
フォーラム資料	15冊発行、合計 90編掲載
国際会議文献	「EVTec & APE Japan 2016」の文献100編を発行

人材育成に関する学術図書の発行 (公3)

シンポジウム・講習会 テキスト	13冊発行、合計 97編掲載
--------------------	----------------

ロードシミュレーション ハンドブック	疲労信頼性部門委員会編著により発行
関西支部	学自研機関誌(学自研ニュース)2回発行
九州支部	学自研機関誌(Eternal Car Life 19号)発行
広報関連他の発行	
プレスリリース	16件配信
ニューズレターJSAE Eye	4回発行(4月、7月、10月、1月)
JSAE メールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信(登録者:約4万名)
北海道支部	支部日より1回発行
関東支部	行事案内6回発行
中部支部	支部ニュース6回発行
関西支部	行事案内7回発行

7 人材の育成 (定款第5条4号、公益目的事業3)

第14回全日本 学生フォーミュラ大会は、海外31チームを含む106チームのエントリーがあり、書類選考を経て、海外21チームを含む92チームが大会に出場した。キッズエンジニア2016は横浜で実施し6,484名の参加者を集めた。また、支部主催の小学生向けものづくりプログラムも活発に行なわれた。自動車開発・製作セミナーは、座学講座編、競技車両見学編、走行実習編、ものづくり編、EV座学講座編トライアル、EVクラス回路製作実習編を実施した。自動車工学基礎講座は海外開催1回を含め7回の開催、また、技術者育成講座として新入会員ならびに学生会員向けに講座を1回開催した。自動車エンジニアレベル認定では、8名のJSAE フェローエンジニア、9名のJSAE プロフェッショナルエンジニア、32名のJSAE シニアエンジニアおよび164名のJSAE エンジニアを認定した。支部学自研主催の講習会、見学会、研究発表会は支部の特徴を活かした活動が行われた。

講習会

部門委員会企画 講習会	講習会4回開催、合計339名参加
自動車工学講座	
基礎講座	第40回:参加者94名、2016年6月14日～15日、7月20日～21日、広島県情報プラザ(広島)
	第41回:参加者264名、2016年8月24日～25日、9月1日～2日、名城大学(名古屋)
	第42回:参加者104名、2016年11月15日～18日、NSTDA(タイ)
	第43回:参加者105名、2016年12月14日～15日、宮城県産業技術総合センター(宮城)
	第44回:参加者277名、2017年2月13日～15日、本田技術研究所(栃木)
	第45回:参加者287名、2017年2月28日～3月3日、東京工業大学(東京)
技術者育成講座	第46回:参加者85名、2017年3月22日～23日、アジアインポートマート会議室(北九州市)
	第1回:参加者101名、2017年3月24日、発明会館(東京)
自動車開発・製作セミナー	
座学講座編	参加者56名、2016年9月8日、エコパ(静岡)
競技車両見学編	参加者6名、2016年4月9日、岡山国際サーキット(岡山)
	参加者14名、2016年11月12日、ツインリンクもてぎ(栃木)

走行実習編	参加者23名、2017年3月18日、日産GRANDRIVE(神奈川) 参加者13名、2017年3月23日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重) 参加者23名、2017年3月30～31日、マツダ美祢自動車試験場(山口)
ものづくり編	参加者12名、2017年3月2～3日、ものづくり大学(埼玉)
EV 座学講座編トライアル	参加者12名、2016年5月27日、パシフィコ横浜(神奈川)
EV クラス回路製作実習編	参加者17名、2017年3月18日、日産GRANDRIVE(神奈川)

支部の講演会・見学会等

北海道支部	見学会1回、講演会2回、市民講座2回開催
東北支部	見学会3回(関東支部共同企画含む)、講演会3回、市民講座を3県で6回開催
関東支部	定例の講演会、講習会、見学会を合計23回開催 今年で7回目となった学生の国際交流活動をタイおよび台湾 SAE との相互交流として実施 施設見学付技術者交流会を中部・関西支部合同で実施
中部支部	見学会、研究発表会、技術講習会、講演会、技術交流会、技術者懇談会、車の挙動体験会など合計27回開催 技術講習会では、車両や部品を展示し、講師と参加者との交流の場を設定
関西支部	見学会7回、講演会1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催(九州支部、関東支部との合同見学会を各1回含む)
九州支部	講演会5回、見学会1回、関西支部との合同例会(見学会、講演会)1回、市民講座4回、技術者交流会1回を開催

技術者・研究者の認定制度

	JSAE フェローエンジニア8名
第11回自動車エンジニアレベル認定	JSAE プロフェッショナルエンジニア9名 JSAE シニアエンジニア32名 JSAE エンジニア164名を認定

第14回全日本 学生フォーミュラ大会—ものづくり・デザインコンペティション—

2016年9月6日(火)～10日(土)に静岡県掛川市/袋井市のエコパ(小笠山総合運動公園)で開催。エントリー106チーム(国内75(ICV67、EV8)、海外31(ICV26、EV5))、参加登録者18,071名(延べ人数)。海外21チーム(タイ4、インドネシア4、中国4、台湾3、インド3、マレーシア1、韓国1、オーストリア1)を含む92チームが参加、ICV 総合優秀賞1位は京都工芸繊維大学、2位は横浜国立大学、3位は名古屋工業大学。EV 総合優秀賞1位は一関工業高等専門学校/岩手大学/岩手県立大学(岩手連合チーム)。書類選考不通過チームの1チームがフォローアッププログラムに参加。

支部合同試走会	8月に関東・中部・関西支部合同試走会開催
北海道支部	学生フォーミュラ車検講習会開催、十勝スピードウェイにて試走会参加、全日本学生フォーミュラ大会に参加、全日本 学生フォーミュラ大会参戦報告会開催 雪氷路ドライビングコンテスト開催
東北支部	第3回学生EVフォーミュラ走行会開催、第14回全日本学生フォーミュラ大会 EV部門へ2チーム参加(内1チームはEV部門2年目で初優勝)
関東支部	8月に溶接講習会、ダンパ講習会、もてぎ試走会、10月にシミュレーション・静的講習会、12月にEV 交流会、車検講習会を実施、3月にダンパ講習会を実施
中部支部	学生フォーミュラ参加校(中部支部以外も含む)に走行技術トレーニング、自動車テクニカルセミナー、基礎技術交流会を開催、学生フォーミュラ大会の3支部合同試走会へ15チーム、第14回全日本 学生フォーミュラ大会に16チームが参加(EV 参加を含む)
関西支部	関西支部独自の試走会2回・走行会1回及び講習会7回、勉強会3回、報告会2回を開催、第14回全日本 学生フォーミュラ大会に19チームが参加
九州支部	試走会3回(6月、8月、3月)、勉強会2回(6月、11月)を開催、第14回全日本 学生フォーミュラ大会に6校7チームが参加

キッズエンジニア2016

2016年8月5日(金)～6日(土)にパシフィコ横浜で開催。小学生及びその保護者を対象に教室プログラム21件、展示プログラム8件を企画。参加者6,484名

支部の小学生プログラム

北海道支部	市民講座1 科学大学にてキッズエンジニア開催 市民講座2 ラリー北海道「北海道自動車産業ゾーン」にてキッズエンジニア共催 市民講座「第2回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」「自動車の将来と電気自動車の構造」を各1回開催
東北支部	キッズエンジニア in 東北2016をスリーエム仙台市科学館にて開催。県内外の小学1～6年生を対象に252名が参加。協賛6社
関東支部	小学生くるま未来体験教室6回開催
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド7回開催
関西支部	尼崎市 ダイハツ販売研修センターにて「キッズ・エンジニア」開催

次世代カーデザイナー人材育成プログラム「中高生諸君！カーデザインに挑戦！」

第5回カーデザイン コンテスト	応募268作品、5名に各賞を授与、佳作18件
--------------------	------------------------

学生活動企画委員会の活動

学生向けウェブ活動 学生向けの情報発信として、SNS(Facebook)を活用

学生安全技術デザインコンペティション

2017年6月のデトロイトで開催される世界大会へ向けて、国内の大学に安全技術デザインの提案を募集し、2016年8月末までに5大学6チームがエントリーした。エントリーチームを対象に、トヨタ自動車施設の見学会・技術者とのディスカッションを実施した(2016年10月)。書類選考(2016年11月)を経て、日本大会(2017年3月)を実施し、東京都市大学チームが最優秀チームに選ばれた。

学生自動車研究会(学自研)の活動

北海道支部	特別講演会1回、支部参与・学生委員会1回開催
東北支部	支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、講演会1回、見学会1回、第35回タイヤ研修会1回、第26回自動車技術独創アイデアコンテスト1次(50アイデア)・2次(12アイデアより最優秀賞2名)、第27回手作り自動車省燃費競技大会(12チーム)、第31回整備コンテスト(19チーム)及び運転適性診断実施
関東支部	学自研大会1回、参与会1回、支部学生委員会12回開催 学術研究講演会、見学会などを9回開催
中部支部	参与会2回、学生委員会6回、支部学術研究講演会1回、新入生ものづくりセミナー1回、自動車テクニカルセミナー3回、走行技術トレーニング4回/6日、交流会1回、基礎技術交流会3回、社会人技術者との懇談会1回開催
関西支部	参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、交歓会2回、小学生体験教室、新車試乗技術説明会、危険回避運転講習会、卒業研究発表会を各1回開催、学生フォーミュラ運営委員会7回、学自研ニュース2回発行
九州支部	学自研総会1回、研究発表会1回、講演会1回、見学会2回、安全運転講習会1回、懇親会1回を開催、学自研機関誌1回発行

8 規格の作成及び普及(定款第5条5号、公益目的事業1)

2016年度は、規格会議傘下に規格委員会(自動車分野)とITS標準化委員会(高度道路交通システム分野)を配し、規格委員会は「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画(2016年度～2020年度)」に基づき、ITS標準化委員会は「ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画(2016年)」に基づき、国内外の標準化活動を推進した。また、昨年から継続して自動運転の標準化に関して自動運転標準化検

討会を開催し、TC22 及び TC204 の各 SC/WG の動向についての情報交換、日本の対応策検討を行った。他団体との連携においては、自工会の国際標準検討会や自動運転検討会との情報共有、また自動運転基準化研究所において自動運転に関する基準と標準の連携活動を実施した。

規格委員会傘下において、ISO 国際会議への派遣や日本開催、JIS・JASO 制定・改正等の活動を実施したほか、第 10 次自動車に関する規格制定・改正長期計画のフォローアップ WG 活動を開始した。ITS 標準化委員会において、「ITS 分野の国際標準化戦略 5 ヶ年計画 (2017 年)」を策定したほか、ISO /TC204 の 2 回の総会に日本代表団、WG14 専門家を派遣するなどの活動を実施した。

規格委員会 (自動車分野)

ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・TC22/SC/WG 会議 会議出席:174会議304名(ウェブ会議出席:57会議以上) 日本開催:4SC(SC35/SC39:人間工学、SC41:環境、SC31:車両通信)、13WG(SC32/WG2、SC35/WG2/WG3、SC39/WG3/WG5/WG7/WG8、SC41/WG3/WG4/WG5/WG6/WG7、SC31/WG2) ・9 件の新規作業項目(NP)制定提案 - 交通情報と操作システムの人間工学-電子キーシステムの HMI 仕様 - 自動運転車のヒューマンファクタに関する用語や計測方法 - クロックエクステンションペリフェラルインタフェース(CXPI) - 第一部:規格概要とユースケース定義 - クロックエクステンションペリフェラルインタフェース(CXPI) - 第二部:トランスポートプロトコル及びネットワークレイヤサービス - クロックエクステンションペリフェラルインタフェース(CXPI) - 第三部:プロトコル仕様 - クロックエクステンションペリフェラルインタフェース(CXPI) - 第四部:プロトコルコンフォーマンス仕様 - 電気コネクタ - 第五部:電気コネクタかん合作業の試験方法及び特性測定方法 - 二輪自動車-燃料蒸発ガス試験方法-第一部:SHED 試験方法による測定方法 - 統一故障診断サービス-第八部:CXPI の統一診断サービス ・国際規格案(DIS)回答 62 件
	<ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回 ISO 研修会 基礎編(7 月 6 日)参加者 83 名 内容:ISO の基礎知識 ・第 9 回 ISO 研修会 実践編(9 月 23 日)参加者 11 名 内容:ISO エキスパート 2 名による講演、グループディスカッション
JIS	<ul style="list-style-type: none"> ・中国自動車技術研究センター(CATARC)と国際標準化活動における日中連携会合 ・制定原案4件、改正原案1件 ・JIS、JASO 原案作成講習会:参加者13名(7委員会)、6月13日、7月14日
JASO	<ul style="list-style-type: none"> ・制定2件、改正13件、小改正3件、標準化調査17件、テクニカルペーパー制定1件・改正1件
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画のフォローアップ WG 活動を開始 ・自動運転標準化検討会における TC22、TC204、自工会との連携促進 ・12部会、61分科会を設置、構成委員数1,811名、開催数582回
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用合理化国際標準化推進事業(自動車の省エネ技術に関する国際標準化)受託先:経済産業省 ・戦略的国際標準化加速事業(①自動車の安全信頼性に関する標準化、②電動二輪車の電池交換システムに関する国際標準化実現可能性調査)受託先:経済産業省

ITS 標準化委員会(高度道路交通システム分野)

ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・TC204/Workshop/WG/CHOD/Plenary 会議 第 47 回コンコード(4 月)参加国数・人数: 18 ヶ国・160 名 第 48 回オークランド(10 月) 参加国数・人数: 18 ヶ国・146 名 ・第 4 回自動運転ワークショップ(WG3 主催)をオークランド総会に合わせ開催 ・5 件の新規作業項目(NP)制定提案 - 高度道路交通システム-地理データファイル 5.1 パート 1 及び 2 - 高度道路交通システム-時空間データ辞書 - 高度道路交通システム-位置参照方式 パート 4 車線精度 - 高度道路交通システム-IC カードによる車載器決済のインターフェイス定義 - 高度道路交通システム-部分的自動駐車システムの機能要件と試験法 ・国際規格案(DIS)回答 8 件
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・TC204 シンポジウム(バンコク) 参加者数: 90 名、2016 年 12 月 13 日、14 日 ・自動運転に関する専門家会議 参加者数: 145 名、2017 年 3 月 1 日 ・ITS 分野の国際標準化戦略 5 ヶ年計画(2017 年)を策定 ・ITS 標準化委員会、技術委員会、ITS 国際標準化戦略タスクフォース、WG14 分科会関連、その他の国内会議を 59 回開催、1,002 名出席
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用合理化国際標準化推進事業委託費(省エネルギー等国際標準共同研究開発・普及基盤構築事業:自動走行システムの基礎的要素技術に関する国際標準化・普及基盤構築) 受託先: 経済産業省 ・エネルギー使用合理化国際標準化推進事業委託費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野):高度道路交通システムに関する国際標準化・普及基盤構築) 受託先: 経済産業省 ・戦略的イノベーション創造プログラム(自動走行システム):ダイナミックマップの国際標準化と海外動向等調査 受託先: 経済産業省

JIS: Japanese Industrial Standards
 JASO: Japanese Automobile Standards Organization
 DIS: Draft International Standard

9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第 5 条 6 号、公益目的事業 1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外では FISITA や APAC の活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2016(2016年7月)を共催。
内閣府	戦略的イノベーション創造プログラム(自動走行システム)へ委員派遣
経済産業省	<p>エネルギー使用合理化国際標準化推進事業(①省エネルギー等国際標準共同研究開発・普及基盤構築事業:自動走行システムの基礎的要素技術に関する国際標準化・普及基盤構築、②省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野):高度道路交通システムに関する国際標準化・普及基盤構築)、③自動車の省エネ技術に関する国際標準化)</p> <p>戦略的国際標準化加速事業(①自動車の安全信頼性に関する標準化、②電動二輪車の電池交換システムに関する国際標準化実現可能性調査)</p> <p>戦略的イノベーション創造プログラム(自動走行システム):ダイナミックマップの国際標準化と海外動向等調査</p>

国土交通省	第25回ESV国際会議(デトロイト:2017年6月)における第7回学生安全技術デザインコンペティションへの日本代表チームを選考 自動運転基準化研究所(事務局:自動車基準認証国際化研究センター)における国際基準化活動と国際標準化活動の連携 名古屋展示会(2016年6月)において自動車安全シンポジウムを共催
日本工学会	理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を図った。
日本機械学会	日本機械学会が幹事となり、第27回内燃機関シンポジウム(2016年12月)を共催
日本規格協会	自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 JIS、JASO 原案作成講習会への講師を依頼
日本自動車工業会	海外におけるPM研究動向の最新研究調査(受託事業)を実施 国際標準検討会・自動運転検討会との連携活動
日本自動車部品工業会	自動車工学基礎講座(北九州)への講師を依頼
日本鉄鋼協会	材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進
日本ロボット学会	共同設置したカー・ロボティクス調査研究委員会の活動を推進 春季大会(2016年5月)において OS、名古屋展示会(2016年6月)においてフォーラムを開催
計測自動制御学会	共同設置した自動車制御とモデル研究専門委員会の活動を推進 春季大会(2016年5月)において OS を実施
FISITA	FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に、本会役員及び役員経験者が就き、FISITA 組織・活動に参画 FISITA 2016 World Automotive Congress Busan(韓国 釜山:2016年9月)の開催に協力、Travelling Fellowship プログラムに若手技術者代表を派遣
SAE International	
国際会議の共催	国際会議共催の協力覚書のもと、SETC 2016(米 チャールストン/SAE 主担当:2016年11月)の開催に協力、SETC 2017(ジャカルタ/本会主担当:2017年11月)開催に向けて準備活動を推進
ドイツ自動車工業会 (VDA)	国際標準化活動における意見交換会を実施
英国機械技術者協会 (I Mech E)	MOU(2015年締結)に基づき友好的協力関係構築の活動を継続推進
中国自動車工程学会 (SAE China)	春季大会(2016年5月)において日中韓自動車フォーラムを共催
韓国自動車工学会 (KSAE)	KSAE Annual Autumn Conference(大邱:2016年11月)の特別セッションに日本人講演者を派遣
国際会議	EVTec 2016 & APE Japan 2016(横浜/本会主催:2016年5月)を開催 FAST-zero'17(奈良/本会主催:2017年9月)の開催準備を推進
アジアなど海外に係わる活動	
アジアでの講習会	第2回自動車工学基礎講座 in タイをNSTDA(タイ国立科学技術開発庁)、並びに在タイ日本大使館、東京工業大学と共催(バンコク:2016年11月)
英文電子ジャーナル	国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信
アジア太平洋地域での ISO 活動	タイ(バンコク)で TC204シンポジウムを開催(2016年12月)
中国自動車技術研究中心(CATARC)	中国(天津)で国際標準化活動における日中連携のための会合開催(2016年11月)

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

OS: Organized Session

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

SETC: Small Engine Technology Conference

EVTec: International Electric Vehicle Technology Conference APE: Automotive Power Electronics

FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology - Toward zero traffic accidents

10 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業3）

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

第66回自動車技術会賞	技術貢献賞1件、浅原賞学術奨励賞3件、浅原賞技術功労賞2件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与。(学術貢献賞は該当なし)
技術教育賞	該当なし
技術部門貢献賞	49名に授与
自動車技術会フェロー	30名に称号を授与
学術講演会 優秀講演発表賞	春季大会講演から11件、秋季大会講演から10件に授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった3名に感謝状を贈呈
出版・編集功績感謝状	本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった方に感謝状を贈呈 編集功績感謝状2名、出版功績感謝状10名
学術講演会運営功績 感謝状	学術講演会の運営に顕著な貢献があった2名に感謝状を贈呈

学生対象の業績表彰

大学院研究奨励賞	101名の大学院生に授与
学自研功労賞	13名の学生に授与

11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

2017年の創立70周年記念事業について企画内容について具体的検討を行い、一部の事業については準備を開始した。

公益社団法人対応業務

内閣府への事業報告 ・決算書の提出	定時総会終了後、事業報告・決算書の提出を内閣府に対して行った。 (電子申請)
----------------------	---

寄附金 17名の方から総額103,000円の寄附金をいただいた。

代議員会・委員会・だいいん会

代議員会	第1回代議員会(2017年1月27日)を開催し、2016年度事業報告・予想決算、及び2017年度事業計画・予算について報告を行った。
運営企画会議	・創立70周年記念事業実行委員会を設置し、企画内容の具体的検討を行った。 ・会員サービス向上を基本とした事業戦略および事業方針を策定するために、将来ビジョン検討WGを設置した。
総務委員会	・2016年春季大会 Keynote Address (小飼雅道氏: マツダ)を企画した。 ・2016年5月と12月に「女性技術者交流会」を開催した。
広報委員会	・プレスリリースを18件配信 ・ニュースレターJSAE Eyeを発行(4月、7月、10月、1月の年4回発行) ・各種メディアへ積極的にアプローチするなどの広報活動を継続した。
研究倫理委員会	2016年秋季大会発表論文の倫理的検証他を行った。
第53回だいいん会	2016年11月17日(木)にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員24名が参加

規則制定・改正

制定	なし
改正	第2回理事会決議: 学生自動車研究会規則、大学院研究奨励賞規則 第4回理事会決議: 組織運営規則

会員増強

関東支部	新入社員の入会促進活動を強力に推進。春季大会無料送迎シャトルバスの運行継続。魅力ある支部行事の企画実施。
中部支部	入会率の低い生産技術、女性技術者向け企画推進等、自動車技術者にとって有益で興味が持てる支部活動とすることで会員増強を図り、本年度目標達成。
関西支部	2017年度までの会員目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会、担当理事を介して各団体へ協力を要請した。

ウェブサイトを活用した会員サービス

新規システム構築	CMS(コンテンツマネジメントシステム)の導入、支部ウェブサイトのリニューアル、本部ウェブサイトのリニューアル、70周年記念パーティ受付システム
システム・データ更新	請求書発行システム、抄録誌編集支援システム、学生フォーミュラ集計・表彰システム、学生フォーミュラ支援システム、中部支部イベント受付システム、マイナンバー収集システム、全日本学生フォーミュラ大会OB・OG情報登録システム、公開委員会受付システム、J-Tech Paper Entry System(国際会議論文受付システム)、JSAE Paper Archives、会誌特集号紹介ページ、アンケートシステム(クエスタント)、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、書誌情報の電子化、オンデマンドライブラリー、会員情報システム、委員情報システム

支部総会・役員会

北海道支部	支部総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回開催
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回、学自研参与会2回開催
関東支部	支部総会1回、理事会3回(内、顧問同席2回)、顧問会1回、事業担当理事会30回開催、ワーキンググループ13回開催
中部支部	支部総会1回、理事会2回、担当理事会2回、担当幹事会4回、常任幹事会2回、各事業別企画委員会多数開催
関西支部	支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回、合同会議2回
九州支部	支部総会1回、理事会2回、常任理事会4回

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・調査及び研究（定款 5-1）
- ・規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・人材の育成（定款 5-4）
- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業